

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査日	令和元年10月23日(水)	調査場所	石川県金沢市
委員	委員長 いいくら 昭二 副委員長 高山 のぶゆき 副委員長 山中 ちえ子 委員 鹿浜 昭 委員 長澤 こうすけ 委員 岡安 たかし 委員 中島こういちろう		

調査項目	金沢文化スポーツコミッションについて
調査の目的	金沢市の金沢文化スポーツコミッションに関する取組みを調査・研究し、当区の文化・読書・スポーツ活動の参考とするため。
調査内容	<p>金沢文化スポーツコミッションは、金沢市の多種多様で土壌の深い「文化」と世界共通の言語である「スポーツ」の双方をツールに、地域コミュニティ・地域経済の活性化、文化とスポーツの振興、そして金沢ブランドの醸成・発信を目的として平成30年7月1日に設立された。</p> <p>金沢文化スポーツコミッションの活動は、3つの柱で構成されている。</p> <p>第一に、「誘致・誘客」である。地元団体の誘致を後押しする金沢市のユニークな支援制度を活用し、地元団体と連携して、全国大会、国際大会等の誘致に取り組んでいる。第二に、「普及・交流」である。応援したい個人・企業と地元団体をマッチングし、クラウドファンディングも活用して、文化やスポーツの普及・交流をバックアップしている。第三に、「金沢 BRAND」である。「文化 × スポーツ」のコラボ(=文武両道活動)等、金沢らしいしつらえや金沢ならではのもてなしで、金沢 BRAND を醸成・発信している。</p>
主な質疑	<p>(問) 金沢文化スポーツコミッションはどのような部署なのか。</p> <p>(答) 市の観光協会の中に設立された組織であり、市の外郭団体である。</p> <p>(問) 予算はどのようになっているのか。</p> <p>(答) 観光協会そのものには、市の経済局で予算をつけているが、金沢文化スポーツコミッションについては、文化スポーツ局で予算をつけている。</p> <p>(問) 金沢文化スポーツコミッションの予算規模は、どのくらいか。</p> <p>(答) 令和元年度の予算額は、8,010万円余である。</p> <p>(問) 主な成功事例について。</p> <p>(答) 文化×スポーツの取組みとして、スポーツ大会で文化活動を実施した事例である。弓道×茶道、水泳×クラシック等好評であった。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	文化・スポーツのコラボレーションにより地元団体と協力しながら金沢らしい大会を演出し、金沢 BRAND を作りあげており、文化・スポーツの普及・交流を支援するとともに観光振興にも資するものである。朗読とピアノのコラボレーションの例等、足立区の文化・読書・スポーツ活動の推進においても参考になる点があった。

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査日	令和元年10月24日(木)	調査場所	福井県福井市
委員	委員長 いいくら 昭二 副委員長 高山 のぶゆき 副委員長 山中 ちえ子 委員 鹿浜 昭 委員 長澤 こうすけ 委員 岡安 たかし 委員 中島こういちろう		

調査項目	ふくい市民活動基金について
調査の目的	福井市のふくい市民活動基金についての取組みを調査・研究し、当区の地域貢献活動の参考とするため。
調査内容	<p>ふくい市民活動基金は、市民協働推進条例に基づき、NPO・地域活動団体・ボランティア団体などの、市内を中心とした公益的な活動や小中学生が行うボランティア活動等を支援するために設置された。</p> <p>基金は、市の予算と市民や事業者からの寄附金を合わせて財源とし、市民活動団体等の行う事業を助成している。また、基金財源増へ向けた対応として、寄附型自動販売機を本事業の所管課（市民協働・ボランティア推進課）が入っている福井駅西口の複合施設（ハピリン）に飲料事業者の協力の下、設置している。</p> <p>助成先の決定については、助成対象団体を公募し、市民から選ばれた市民協働推進委員会の意見を聞いて、市が決定をしている。助成を受けた団体には、実施した事業を広くPRすることを目的として、公開の場で事業の成果を発表し、助成事業の検証、課題解決に向けた意見交換も実施している。このような取組みが団体活動の周知や活動への参加を呼びかける機会にもなっている。</p>
主な質疑	<p>(問) 助成の方向性は何か。</p> <p>(答) 地域で活動する団体や特定の社会的テーマを掲げて活動する団体を支援したり、団体の核となる事業のスタートアップを支援するものとなっている。</p> <p>(問) この制度を実施して、どういうところに成果があったか。</p> <p>(答) 助成を受けた団体が、この制度をきっかけに取組みを拡大し、資金獲得の力も高めていき、活動、団体の基盤が強化されたところもある。</p> <p>(問) 助成額の決定方法はどのようになっているか。</p> <p>(答) 公募市民、市民活動関係者、事業者、学識経験者など計10名で構成する福井市市民協働推進委員会の審査意見に基づき、市が助成先及び助成金額を決定している。</p>
委員長所見・区政に活かせる点等	福井市では、市民・事業者からの寄附や市費の他に寄附型自動販売機を設置することにより、その貸付料と売上金の一部を財源に積み立てている。足立区では、地域貢献活動に対して、公益活動げんき応援事業助成金による支援を行っているが、財源の確保策として参考となった。

地方都市行政調査 報告書

委員会	区民委員会		
調査日	令和元年10月25日(金)	調査場所	福井県福井市
委員	委員長 いいくら 昭二 副委員長 高山 のぶゆき 副委員長 山中 ちえ子 委員 鹿浜 昭 委員 長澤 こうすけ 委員 岡安 たかし 委員 中島こういちろう		

調査項目	読書普及活動について
調査の目的	福井市の桜木図書館での取組みを調査・研究し、当区の図書館サービスの参考とするため。
調査内容	<p>※以下の内容について施設（桜木図書館）の見学を行った。</p> <p>[施設概要]</p> <p>福井市の図書館は、市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資するため、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保全して一般市民の利用に供している。市内の図書館は、市立図書館、みどり図書館、桜木図書館、市町村合併で福井市の図書館になった美山図書館、清水図書館の5館と、移動図書館「あじさい号」及び、移動図書館「フェニックス号」で、市民の暮らしの中に生きる図書館づくりに努めている。</p> <p>桜木図書館は、平成19年に福井駅東口再開発ビルであるAOS SA（アオッサ）の4階部分に開館した。桜木図書館は、新聞・雑誌などの資料を豊富に揃え、産業情報関係書の充実、地域情報の収集・提供をするとともに、記事検索などのデータベースによる情報提供も行っている。5館の中で最も開館日と利用者が多く、唯一ICタグを活用し、スピーディーな貸出・返却を行っている。</p> <p>当図書館の所在地は、福井城（本丸を中心として三重四重に堀が廻る平城で、その範囲は東西約1.6km、南北約2kmにも及ぶ全国屈指の規模を誇った。）より南東に位置し、発掘調査により一つの城門址が確認されている。幕末維新期の様相を描いた「福井城下絵図」（松平文庫）に見える桜木御門と比例されることから、桜木図書館の名の由来となった。</p> <p>桜木図書館では、中心市街地に立地しているという特性を生かした独自の取組みを展開している。ボランティア活動「布絵本づくり」では、桜木図書館にしか布絵本が設置されていないことから、布絵本づくりのボランティア活動を行っている。また、「高校生ビブリオバトル」では、福井市内の高校に通う生徒がお薦めの本を紹介し合う知的書評合戦を行っている。中高生が観客となり、書評を聞くことで、学生の読書普及に寄与していると感じた。</p> <p>福井市内の図書館では、マイナンバーカードを図書貸出カードとして利用できるサービスを行っている。カードを一体化することで、マイナンバーカードと読書の双方の普及が期待されている。</p>